

北勢地域の茶産地において二番茶の全窒素量に影響を及ぼす要因

利用対象：三重県内のかぶせ茶生産者

- 北勢地域のかぶせ茶産地では、ドリンク用二番茶の成分品質の安定化が実需者から望まれていますが、主な要因は特定されていません。
- 茶生産を取り巻く環境が変化する中、二番茶の成分品質向上に向けての課題を抽出するため、北勢地域(四日市市、鈴鹿市、亀山市)の生産者 11 件における、2017 年産および 2018 年産のかぶせ茶の成分品質データ、肥培管理状況および気象データを解析しました。

要因 1. 二番茶生育期の降水量

- 二番茶生育期の降水量が少ない年は、二番茶の全窒素量が低い傾向があります(図 1)。

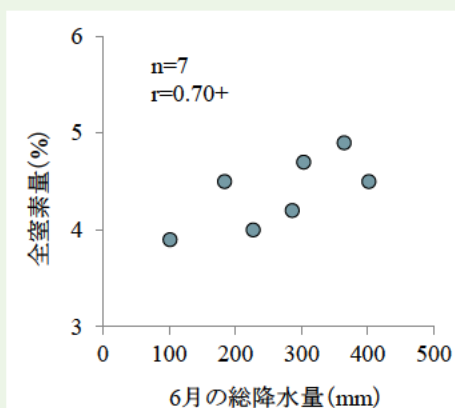


図 1 二番茶生育期の降水量と、二番茶の全窒素量との関係(2011~2018 年、茶業研究課における育成系統評価試験。摘採前 10 日間被覆。品種「やぶきた」。降水量は亀山アメダスデータ)

- 二番茶の全窒素量に及ぼす影響は、降水量 > 摘採時期 > 施肥窒素量の順に大きいことが判明しました。
- 全窒素量を向上するには、施肥基準の範囲内で施用し、適期摘採を行うことが重要です。

要因 2. 二番茶の摘採時期

- 一番茶摘採から 45 日目以降は、摘採時期が遅くなるほど二番茶の全窒素量が低下する傾向があります(図 2)。

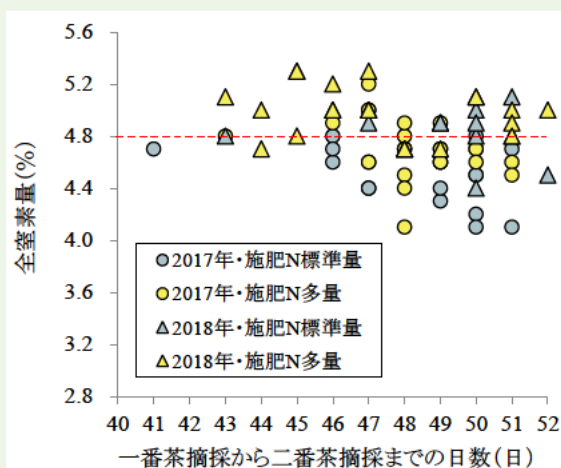


図 2 北勢地域における二番茶前の施肥窒素量および摘採時期と、二番茶の全窒素量との関係(2017年n=40、2018年n=36。品種「やぶきた」。図中の二番茶前の施肥窒素量について、標準量は平均 9.4kg/10a、多量は平均 24.7kg/10a。)

要因 3. 二番茶前の施肥窒素量

- 二番茶前の施肥窒素量が多いほど、全窒素量が高い傾向がありますが、一番茶摘採から 48 日目を越えると、増施効果は低くなります(図 2)。

お問い合わせ先	茶業・花植木研究室 茶業研究課 田中千晴 電話 0595-82-3125
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm